

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
経常収支比率 (%)	86.6	86.6	94.2	95.7	94.5
実質公債費比率 (%)	12.0	11.2	11.3	11.7	12.3
将来負担比率 (%)	69.7	76.5	89.4	88.3	94.3

経常収支比率…自治体財政の弾力性を示す指標。人件費や扶助費など経常的支出が、一般財源のうちどの程度の割合になるかを示す比率。比率が高くなるほど硬直化が進む。

実質公債費比率…自治体の収入に対する負債返済の割合。18%以上になると新たな借入に国や県の許可が必要になる

将来負担比率…自治体の借入金の大きさを、その自治体の財政規模との割合が示したものの。



平成30年度 決算審査

平成 30 年度は、7 月に発生した豪雨災害を受けて、予定されていた施策や事業を中断して、財政調整基金を大幅に取り崩し、災害復旧を最優先に重点的な予算が組まれました。そのため、前年度に比べて歳入で約 39 億 5000 万円増、歳出で約 32 億 3000 万円増と大幅に増加しています。しかし、合併から 10 年以上が経過し、普通交付税の段階的な縮減が始まっており、高梁市の財政を取り巻く環境はかつてなく厳しいものになっています。

総務費

- Q ふるさと応援基金積立金の使い道は。
- A 寄付者の意向を伺っている。移住者支援、安心なまちづくり、雇用環境の創出、心豊かな人材の育成、災害対策、観光振興、地域振興基金、スポーツふれあい活動などに充てている。
- Q 使い道を寄付者に報告しているのか。
- A 他市では行っているのので、検討する。
- Q 住宅新築補助や住宅取得助成制度、また住宅リフォーム助成や空き家バンクへの登録も行っているが状況はどうか。
- A 空き家バンクの利用や住宅リフォームは、7月の豪雨災害の影響もあり減っている。梁クラスを介した方は定着率が高いと思われる。

民生費

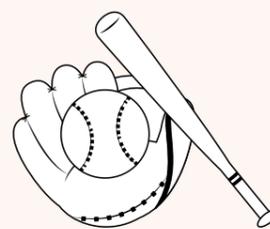
- Q 病後児保育の実績が少ないが。
- A 昨年はインフルエンザの流行がなく、対象者が少なかった。広報も強化する。

衛生費

- Q 子ども医療費支給事業について支給件数が減っているが理由は。
- A 出生数が減少しているが、一件あたりの支給額が増えているので、医療費の総支給額については大きな差はない。

教育費

- Q 平成30年度に実施できなかったスポーツ関係の行事の成果をどう評価しているのか。
- A 交流人口の増加には寄与している。ただし、行政改革の考え方に基づいて、予算の範囲内で配分するため平成31年度には縮小したものである。
- Q スポーツ行事の中には、市より委託を受けて何十年も前から開催しているものもある。全額削減ではないのか。
- A 各地域で野球大会、剣道大会、柔道大会など様々な大会が行なわれている。それぞれの競技を運用していく中で補助金を調整させてもらっている。
- Q 成羽運動公園野球場や平松政次球場などの管理を委託に出している。外野の芝生が傷んでいるが、どう考えているのか。
- A 平松政次球場の芝生については、昨年度は使用を中止して、一部の芝生の張り替えを行った。全面的な改修は予算的に厳しいので、年次的に部分補修を計画していく。
- Q 図書館の駐車場管理費が800万円だが、使用料収入は約200万円である。管理の在り方を見直すべきではないか。
- A 収支のバランスが崩れているのは確かである。図書館の駐車場という在り方と共に、利活用にも取り組んでいく。



商工費

- Q 高梁国際ホテルの状況はどうか。
- A ホテル側から総額3億円弱の改修計画が提出されていて、対応を検討中である。
- Q 観光戦略についての方策は。
- A 市内の観光協会の統一に向けて協議が行われている。
- Q 商工費が年々減額されている。市の認識は。
- A 主な減額要因は住宅リフォーム事業や観光トイレ
- 事業が終了したためである。商工業発展に向けては国の制度などを活用して進めたい。
- Q 吹屋地域活性化事業委託料220万円はどういう事業なのか。
- A 旧吹屋小学校の保存修理が完了することに当たり、吹屋地域の活性化を図っていくのが主な目的。地元の方と5回のワークショップを行って意見を伺った。

土木費

- Q 岡山自動車道付加車線設置事業の進捗状況は。
- A 有漢トンネル工事18% 橋梁下部工事12%、高梁工事区99%である。
- Q 街路整備事業検討業務委託料の内容は。
- A 市道下町・薬師院線（駅から花木通り）の設計を行った。
- Q 単独住宅（旧雇用促進住宅）の入居状況は。
- A 274戸の内168戸入居している。
- Q 単独住宅の老朽化が進んでいるが、今後の考えはあるのか。
- A 老朽化の進んだ臥牛団地（原田南町）については検討中である。
- Q 吹屋にある宿泊施設「町家ステイ吹屋千枚」の稼働状況は。
- A 稼働率は16%であるが、昼のカフェは好調なので、認知度を上げていきたい。
- Q 市営住宅の管理を外部委託したらどうか。
- A 今後検討を進めたい。

農林水産業費

- Q 農地費が大きく減額補正されているが、要因は何か。
- A 主に県事業が縮小されたこと、豪雨災害での事業見直しである。

簡易水道特別会計

- Q 一般会計から毎年4億5000万円を特別会計に繰り入れているが統合後はどうなるのか。
- A 高料金対策の繰入金が減額され、赤字補填ができなくなる。今後も使用料が高くなるように国に要望していく。